

地球と共生して未来を守る

NECでは、NEC Wayに基づき、持続可能な社会の実現を目指すために、「環境経営」を推進しています。企業の社会的責任として、気候変動はもちろん、水や資源循環、化学物質、生物多様性など、自らの事業活動に伴う環境負荷の低減を行います。特に、気候変動に関しては2022年9月に、サプライチェーン全体からのCO₂排出量を2040年までにゼロにする野心的な目標を掲げて取り組みを強化しています。また、ICTや自社の技術を活用した製品・サービスの提供をとおして、お客さまや社会全体の環境負荷低減へ貢献しています。これら事業と一体となった「環境経営」をグループ全体で推進するために「環境方針」を制定し、役員から従業員に至るまで方針の遵守と、環境に配慮した行動を徹底しています。

2030年に目指すべき未来像であるNEC

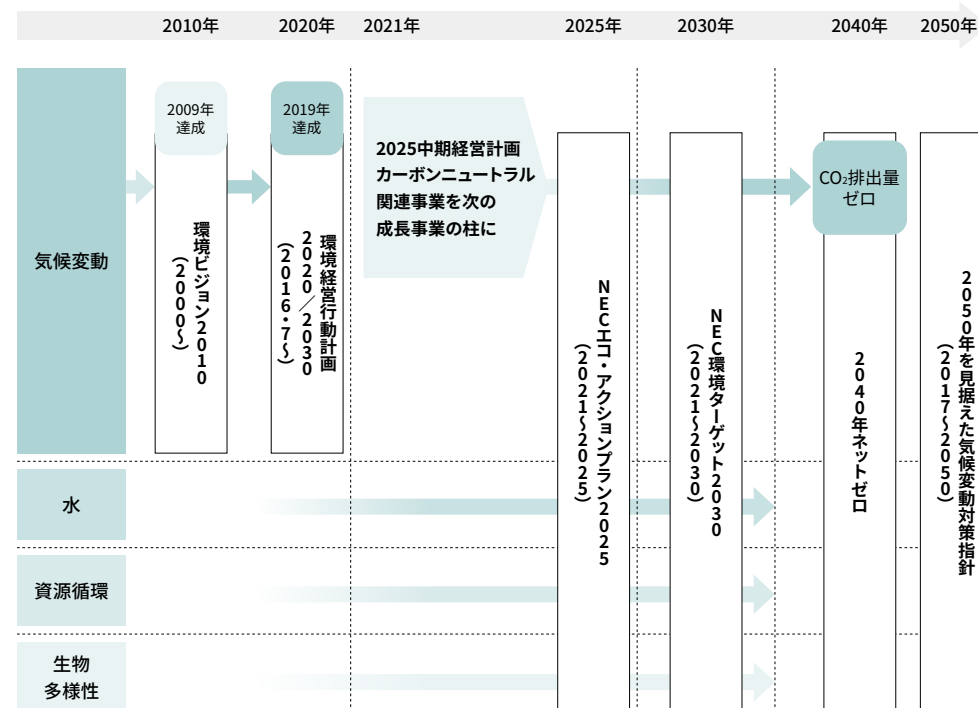
NEC 2030VISIONにおいても、すべての営みの土台として環境を位置づけています。そこで描いた目指す社会像の実現に向け、これからもさまざまな環境課題の改善や解決に向けて価値を発揮していきます。

環境方針

NECは環境との調和を経営の最高課題のひとつとして位置づけ、グローバルサプライチェーン全体で環境負荷の低減に努め、持続可能な社会づくりに貢献します。

1. 社会価値の創造を、先進技術によるICTソリューション・サービスにより実現し、お客さまや地球環境の環境負荷低減、気候変動の影響軽減に貢献します。
2. ICTソリューション・サービスの開発においては、ライフサイクル全体の環境影響を評価し、環境負荷の低減に配慮します。
3. 事業活動に伴う環境関連法規制、およびステークホルダーとの合意事項を遵守すると共に、サプライチェーン全体での、省エネルギー、省資源、化学物質や廃棄物などによる環境汚染の予防に努めます。
4. 環境負荷の少ないハードウェア、ソフトウェア・サービスを優先的に調達します。
5. 事業活動、ICTソリューション・サービスにおける環境関連情報を、ステークホルダーに対し開示します。
6. 社員一人ひとりの環境意識を高め、気候変動対応や資源循環推進、生物多様性保全を始めとした地球環境保全に貢献します。
7. 環境マネジメントシステムを構築し、環境目標を定めて運用するとともに、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

「持続可能な社会」の実現に向けた環境への取り組み



地球と共生して未来を守る

気候変動：2040年までにCO₂排出量“実質ゼロ”を目指して

気候移行計画

NECは、パリ協定の目標に則した2040年のネットゼロ社会と整合したビジネスモデルへの移行を図るため、既存の指針や取り組みを整理し、気候移行計画を策定しました。シナリオ分析による未来予想、事業リスクと機会の明確化、

中長期計画の策定、施策の実行と評価という連のPDCAを回しています。また、その進捗について取締役会で報告するとともに、TCFD提言に沿った情報開示を行っています。

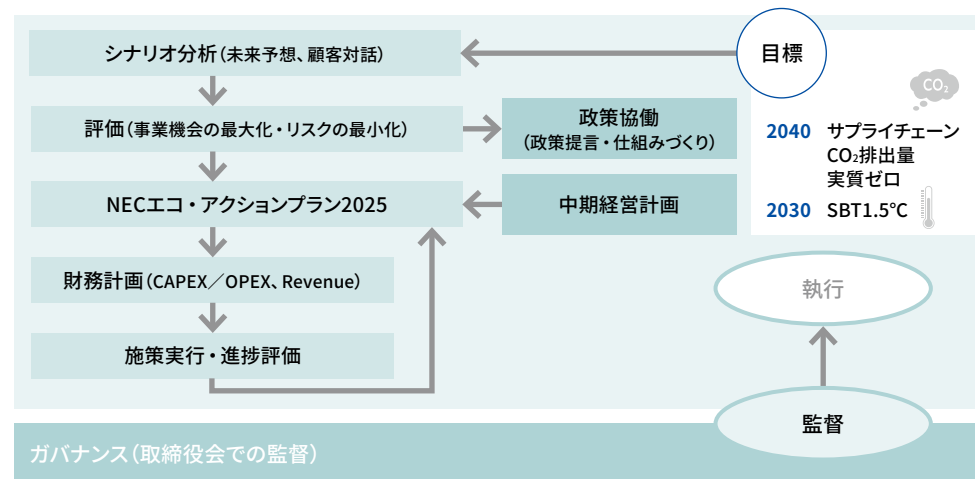
☒ 詳細はESGデータブック2023 P20「TCFDの提言に沿った取り組み概要」をご覧ください。

CO₂排出削減に向けた長期目標

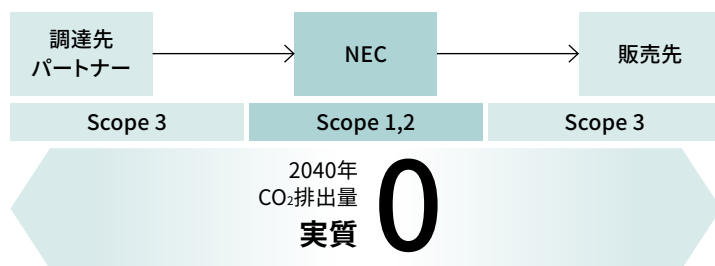
NECは2017年に「2050年を見据えた気候変動対策指針」を策定しました。2021年9月には、Business Ambition for 1.5°Cに署名し、「2050年にScope1,2,3からのCO₂排出量実質ゼロ」を宣言しました。これは、従来の目標であった自社の事業活動 (Scope1,2) に加え、Scope3を含

むサプライチェーン全体からのCO₂排出量を実質ゼロにすることです。また2022年9月には、パリ協定の目標より10年早く2040年までのネットゼロカーボン達成を約束する「The Climate Pledge (気候変動対策に関する誓約)」に署名しました。

NECの気候移行計画



サプライチェーン全体からのCO₂排出量“実質ゼロ”へ



Scope 1：事業者が所有または管理する排出源から発生する温室効果ガスの直接排出
 Scope 2：電気、蒸気、熱の使用に伴う温室効果ガスの間接排出
 Scope 3：Scope 1,2を除く企業群 (サプライチェーン) 全体からの間接排出

SBT1.5°C	2021年5月再認定		Scope 1+2：2030年度までに2017年度比で55%削減 Scope 3：2030年度までにカテゴリ1 (購入した製品・サービス)、カテゴリ3 (Scope1,2に含まれない燃料、エネルギー活動) およびカテゴリ11 (販売した製品の使用) を2017年度比で33%削減 Scope 3の対象範囲：カテゴリ1の35%、カテゴリ3の100%、カテゴリ11の100%
RE 100	2021年5月加盟		国内外の拠点で消費する電力を2050年までに100%再生可能エネルギーとする
BA1.5°C	2021年9月署名		サプライチェーン全体からの温室効果ガス排出量を2050年までに実質ゼロ
THE CLIMATE PLEDGE	2022年9月署名		サプライチェーン全体からの温室効果ガス排出量を2040年までに実質ゼロ

☒ 詳細はESGデータブック2023 P19「気候変動に関するイニシアチブへの参画」をご覧ください。

地球と共生して未来を守る

シナリオ分析

NECは、気候変動を考慮したシナリオ分析なくして企業の存続や成長はないと考えます。最新のグローバルリスクでも気候変動に関連したリスクが多く挙げられ、企業の事業活動や収益のみならず、私たちの暮らしに非常に大きな影響を及ぼします。そのため、どのような未来になっても、NECが存続・成長し、安全・安心な社会を実現するために、複数のシナリオを用いて進むべき方向性を検討しています。2019年には、全社のシナリオ分析を実施し、2つの異なるシナリオにおいて、自社のリスクと機会がどのように変化するかを分析しました。

NECでは、海底から宇宙までグローバルでさまざまな事業を展開しています。その個々の事業分野ごとにとらえるべき気候変動によるリスクや機会が異なるため、NECグループ全体をひとまとめにして未来の気候変動によるリスクと機会を語ることは、必ずしも適切とは言えません。そこで、2021年度より事業分野ごとにシナリオ分析を行っています。2022年度は、中期経営計画の事業戦略の1つである「デジタルガバメント」の領域から国内行政DXと2030年の脱炭素社会への移行度合い(1.5°Cと4°C)をシナリオに用いて分析し、そこでNECの事業機会について検討しました。

E 詳細はESG データブック2023 P21「シナリオ分析」をご覧ください。

シナリオ分析から得られた示唆の例

- 1.5°Cシナリオにおいては「地域エネルギーマネジメント」、4°Cシナリオにおいては「地域防災」と「インフラ整備」、そして両シナリオともに「ヘルスケア事業」においてニーズが高まり、事業機会が生まれる
- それらニーズに対して、NECグループの既存サービスを発展し掛け合わせて価値提供を行うことで、強みを発揮できる可能性が高い
- どちらのシナリオにおいても「データプラットフォーム化」(標準化、統一化)が進むため、従来のビジネスモデルからの転換が必要となる

シナリオ分析の評価：事業リスクと機会

リスク	内容	リスク管理と対策
移行リスク	カーボンプライシングによるリスク ・CO ₂ 排出実質ゼロ(2040年)に向けた2030年度新目標達成時のNECのScope 1、2(約16.4万t)すべてにカーボンプライス(130米ドル/t-CO ₂)がかかると想定すると、28億円のコスト増(1米ドル=130円で想定) ・サプライチェーンの上流、下流のコスト増もインパクトを与えると想定	CO ₂ 排出実質ゼロ(2040年)達成に向けた効率化の徹底と再生可能エネルギーの活用拡大(サプライヤーエンゲージメントや製品の省エネ性能向上への継続的な取り組みを含む)
物理リスク	気象災害(洪水、土砂崩れ、水不足など)に伴うサプライチェーンの寸断、電気・ガス・水道などライフラインの長期間にわたる停止を想定	サプライチェーン全体のリスク評価と河川氾濫など気象災害を含むBCP対策(防水扉の設置や電源設備の移動など)、データセンターでの発電設備強化

機会	内容	機会創出と拡大
移行リスク対策への価値提供(緩和)	CO ₂ 排出の少ない交通インフラ整備	AIおよびIoTを活用した物流可視化・ルート最適化、EV・PHV充電クラウドなど
	再生可能エネルギーの活用拡大支援	仮想発電所(VPP)、電力需給管理、リソースアグリゲーション事業(需給調整市場)、xEMS(エネルギーマネジメントシステム)、再生可能エネルギーを活用したデータセンターサービス提供など
	エネルギーの無駄の削減支援	DXによるプロセス改革(業務自動化、スマートファクトリー、需給最適化)、データセンターの省エネ化を支える製品・技術(新冷媒)など
物理リスク対策への価値提供(適応)	気象災害の増加への備え	・AIおよびIoT、画像解析などを活用した災害発生前の予兆検知、河川氾濫シミュレーション、避難支援など ・防災・減災による将来のCO ₂ 抑制量を可視化し、金融商品化することで防災・減災対策への投資を促進する仕組みを検討
	森林火災の増加への備え	森林火災監視・即応システム、衛星による災害監視など
	農業生産適地の変化への備え	影響予測シミュレーション、農業ICTソリューションなど
	感染症の拡大への備え	感染症対策ソリューション、地球規模感染症発生時の物流情報管理プラットフォーム、リモートワーク、遠隔診療支援、教育クラウドなど

E 詳細はESG データブック2023 P22「シナリオ分析から見たリスクと機会」をご覧ください。

地球と共生して未来を守る

「NECエコ・アクションプラン2025」の進捗と見直し内容

長期の環境指針・目標の達成に向けてグループ全体で推進するための中期的な活動計画を「NECエコ・アクションプラン2025」としてまとめ、各ビジネスユニット、グループ会社へ展開しています。なお、以下の3つの視点から、特に重点的に取り組む項目を選定しています。

1. 自社のリスク・負荷低減
2. 事業を通じた貢献の拡大
3. 環境経営を推進するための基盤づくり

1. 自社のリスク・負荷低減

No.	活動テーマ	指標	2022年度		評価	2023年度		2025年度	
			(目標)	(実績)		目標	目標		
(1)	Scope1,2 CO ₂ 排出削減	総量(絶対値)削減(SBT)	エネルギー由来CO ₂ 排出量(絶対値)の削減率(2017年度比)	-21.9%	-45%	○	-15%	-25%	※ TCP加盟をふまえ、2020年度を基準とした新たな目標へ強化
(2)		再生可能エネルギー拡大	再生可能エネルギー電力使用量(MWh)	74,000	180,072	○	213,000	220,500	
(3)	Scope3	カテゴリ1削減(SBT)	削減率(2017年度比)	-3%	+5%	×	-4%	-6%	
(4)		カテゴリ11削減(SBT)	各製品のエネルギー効率改善率(2013年度製品比)	75%	61%	×	70%	80%	※ 製品ミックスの変化をふまえた目標へ見直し
(5)	水使用量の削減	削減率(2018年度比)	-2.0%	-25%	○	-9.5%	-10.5%	※ コロナ禍による削減量などをふまえ目標を見直し	
(6)	廃棄物排出量の削減	削減率(2018年度比)	-2.7%	-9.9%	○	-3.4%	-4.8%		
(7)	プラスチック資源循環促進(2023年度からの新規目標設定項目)	プラスチック削減目標	削減目標	—		—	-2.8%	-4.2%	
		廃棄物排出量削減	情報開示	—		—	開示		

🌐 「NECエコ・アクションプラン2025」の主要KPIの詳細は、下記をご覧ください。
<https://jpn.nec.com/sustainability/ja/eco/target.html>

2. 事業を通じた貢献の拡大

No.	活動テーマ	2022年度(目標)	評価	2023年度	2025年度
				目標	目標
(8)	環境アセットの整理とエコアピール促進	環境アセットの更新(随時、年1回全体見直し) エコアピール促進(実績管理)	○	(目標継続)	
(9)	新たな環境ソリューション、研究開発テーマ創出	環境ビジネス検討ワークショップ開催(1回以上)	○	(目標継続)	

3. 環境経営を推進するための基盤づくり

No.	活動テーマ	指標	2022年度		評価	2023年度	2025年度
			(目標)	(実績)		目標	目標
(10)	全従業員の環境意識向上	受講率	国内	95%以上	96.6%	○	95%以上
		海外	90%以上	95.3%	○	95%以上	

管理項目

「重点活動項目」の他に、目標および計画策定は必須としないが活動レベルの改善・向上に努める「管理項目」を設定し、環境経営を推進しています。

📄 詳細はESGデータブック2023 P15「環境経営中期計画の進捗 管理項目」をご覧ください。

地球と共生して未来を守る

気候変動緩和に寄与する製品・サービス

カーボンニュートラルに向けたESG戦略コンサルティングサービス

お客様のカーボンニュートラル実現に向けて、NEC自身の取り組みから得た知見も活かしながら、ESG全体の課題整理、全体戦略策定、施策実行までを支援するコンサルティングサービス

を提供します。また、その実行を下支えするソリューションをご用意し、さまざまなお客様課題の解決をトータルサポートします。

NEC ESG戦略コンサルティング	ESG全体の課題整理	全体戦略計画策定	施策実行	情報発信
	ESGと経営戦略の課題分析・評価&具体化オプション導出	カーボンニュートラル全体戦略&導入効果と変革構想 Purposeドリブンデザイン思考	DX戦略&脱炭素ビジネスモデル変革支援 新規事業起動&スケールコンサルティング カーボンニュートラルAction for Branding	

実行を下支えするカーボンソリューション	再生可能エネルギー活用	【再生可能エネルギー100%データセンター】 NEC Cloud IaaS/ハイブリッドクラウド						
	見える化	リソースアグリゲーション NEC Energy Resource Aggregation クラウドサービス	業種特化型ソリューション					
		サプライチェーン全体のCO ₂ 排出量見える化 GreenGlobe X	製造 スマートファクトリー	ロジステイクス 物流効率化・物流可視化	エネルギー 各種×EMS	自治体 グリーン調達ソリューション	交通 EV充電・クラウドサービス	まちの安全 スマート街路灯
業務変革	データモニタリング・分析・ロードマップ見直し GXマネジメントサイクル (ABeam)							

ESGコンサルアプローチ：脱炭素実現ステップ

お客様の課題解決プロセス(=脱炭素実現ステップ)をもとに、All NECでお客様を支援します。

脱炭素実現ステップ	ESG全体の課題整理	カーボンニュートラル(CN)推進					情報開示 情報発信
		CN全体戦略 計画策定	施策実行				
実施内容	企業課題の整理 ・GHG見える化 ・脱炭素推進における課題分析 ・環境、シナリオ分析(機会とリスクの抽出)	全社の脱炭素戦略策定 ・ネットゼロに向けた全体施策策定 ・ロードマップ策定 ・体制構築、制度設計 ・イニシアチブ参画 等	現状把握 ・GHG削減施策策定 ・施策優先度づけ ・移行リスクと機会 ・リスク:既存事業の変革機会:新規事業の立案	GHG削減施策の実施 ・要件の具体化 ・選択肢の比較、選定 ・設置、導入	GHG削減施策の評価 ・モニタリング ・分析・シミュレーション ・評価	GHG削減計画、施策見直し ・施策改善提案 ・ロードマップ更新 ・排出権・クレジット取引の検討	・統合レポート ・ESGデータブック ・CDP他各種ESG調査
	実施内容	企業課題の整理	全社の脱炭素戦略策定	現状把握	GHG削減施策の実施	GHG削減施策の評価	GHG削減計画、施策見直し

NECのサービスメニュー	戦略コンサルティング	全体戦略策定	DX戦略コンサル、脱炭素シミュレーション	施策優先度検討	施策実施効果分析	施策改善検討	情報開示、 報告支援
	ESG経営課題整理	CNアセスメント、導入効果算定	脱炭素ビジネス創出	施策導入	施策効果検証	新施策検討、実行計画立案	
施策実行支援	CN Action for Branding						
	各種ソリューション例						
	課題別セット ニュー・パッケージ	見える化ツール (GreenGlobeX)	資源循環ソリューション	ファンド			
	クイックスタートメニュー	脱炭素エネルギーソリューション	需給予測ソリューション				

☒ 詳細はESGデータブック2023 P23「NECグループの環境ソリューション例」をご覧ください。

地球と共生して未来を守る

水リスク管理と水資源の有効活用

NECは環境関連法規制を遵守し水利用量の削減や環境負荷の低減に努めるとともに、水不足、水質汚濁、洪水などの水リスク管理を進めています。

リスク/機会	内容	リスク低減対策/機会の具体例
リスク	渇水や災害による断水により、事業存続や生産の遅延・停滞が生じる	各拠点で断水に備えたBCP対策を実施済み
機会(経済価値)	台風など風水害での被害を低減させる防災ビジネスの市場ニーズが高まる	河川水位予測など、水害対策支援システムの導入拡大

資源循環と汚染防止への取り組み

NECは生産から使用、リサイクルまで一貫した資源循環への取り組みと各過程で発生する廃棄物などの環境負荷の低減を行っています。お客様さまにご使用いただいているハードウェア製品には、多くの資源が使用されており回収・リサイクルすることで限りある資源を有効に活用しています。

リスク/機会	内容	リスク低減対策/機会の具体例
リスク	国内外の使用済み製品の回収やリサイクルに関する規則の強化に対応するため、コストや時間を要する。対応が遅れた場合、競争力や評価の低下に関わる	法規制前の情報収集により、早期対応を実施
機会(経済価値)	サーキュラーエコノミー関連ビジネスの新市場開拓や市場拡大が進む	自社バイオプラスチック製品やAIを使用した食品ロス対応ソリューションの需要拡大

自然資本/生物多様性への取り組み

NECは事業活動や従業員の生活が生物に及ぼす影響をできる限り小さくするとともに、生物多様性に貢献する活動やICTソリューションの提供を推進しています。近年、自然や生物多様性に関連したさまざまなイニシアチブが、気候変動に続いて世界で始動し、数年内には本格的に導入・普及していくことが見込まれています。2021年度より、NECはビジネス界で影響力を持つことが予想される2つの国際イニシアチブ(SBTs for Nature^{*1}/TNFD^{*2})に、枠組みの検討段階で企業メンバーとして参画しています。2023年7月10日には、TNFDより発行された「TNFDの自然関連リスクと機会管理・情報開示

フレームワークベータ版v0.4^{*3}」(以下、TNFDベータ版v0.4)を参照し、生物多様性を含む自然資本に関わる事業リスクや機会を開示するレポートを公開しました。TNFDベータ版v0.4を参照した情報開示は日本初の取り組みとなります。

🌐 「NEC TNFDレポート2023」は、下記をご覧ください。
<https://jpn.nec.com/sustainability/ja/eco/pdf/NEC-tnfd-2023-j.pdf>

*1 SBTs for Nature: 企業参画プログラム
 企業・自治体が地球の限界内で行動するための科学に基づく目標。気候変動の1.5°C目標を推進したSBTの「自然」版。2022年に目標設定手法を公開予定

*2 TNFD: 自然関連財務情報開示タスクフォース
 TNFDフォーラムでは、自然を保全・回復する活動に世界の資金の流れを向けるため、企業の自然関連の財務情報を開示する枠組みを設定

*3 https://framework.tnfd.global/wp-content/uploads/2023/03/23-24287-TNFD_v0.4_Short_Summary-JA_FINAL.pdf

リスク/機会	内容	リスク低減対策/機会の具体例
リスク	生産拠点における土地の改変、地下水や地表水の利用、排水・排ガスおよび廃棄物がある地域の生物多様性に影響を与える	NECの事業場では有機溶剤や酸・アルカリ性の材料などを使用しているため、排水、大気、土壌への漏えい防止の対策や訓練を実施
機会(社会価値)	拠点や近隣地域での生物多様性保全により、多様なステークホルダーとの協働やブランド価値の向上につながり、潜在的なビジネス発掘にもつながる	絶滅危惧種(オオモノサントノボ)の保全や田んぼづくりプロジェクトにおける生物多様性保全と地域交流を実施

📄 詳細はESGデータブック2023 P30「生物多様性への取り組み」をご覧ください。

環境に関する社外からの評価

NECはCDP2022において、気候変動および水セキュリティの2部門で、4年連続で「A」の評価を受けました。サプライヤーエンゲージメント評価^{*}においても、3年連続で最高評価となる「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー・ボード」に選定されました。



* サプライヤーエンゲージメント評価とは、企業のサプライチェーン全体での気候変動・温室効果ガス排出量削減への取り組みを調査し、取り組みに応じて企業を格付けするものです。